

【様式 01】高大連携公開授業シラバス

* 科目 No.	21104
----------	-------

1. 開設大学	広島大学 生物生産学部	開催方法	<input type="checkbox"/> 対面 () <input checked="" type="checkbox"/> オンライン (同時・録画)	
2. 科 目 名	SDGs に向けた生物生産学入門			
	学問分野	番 号	33 名 称 農学 (農学, 水産学等)	
3. 担当教員	大学院統合生命科学研究科・教授 他 14 名			
4. 開講学期	前期 週 2 コマ			
開講期間 (曜日)	令和 8 年 4 月 13 日 (月)、4 月 20 日 (月)、4 月 27 日 (月)、5 月 11 日 (月)、5 月 18 日 (月)、5 月 25 日 (月)、6 月 1 日 (月)、6 月 8 日 (月)			
開講時間	12 時 50 分～14 時 20 分、14 時 35 分～16 時 05 分 (1 日 2 回)			
5. 募集定員	80 人			
6. 科目内容・授業計画	<p>現代の人類が抱えている食料・環境問題や資源動植物の生産と生態、食品科学や発酵に関わる微生物について学習し、SDGs 達成に貢献する生物生産学を理解する。15 名の教員によるオムニバス形式で、月曜日に 2 回分の授業を連続で行う。授業内容と担当者、授業キーワードは以下の通りである (順不同)。</p> <p>【生命の仕組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生殖の仕組み—鳥類：産卵/精子/貯精 (松崎) ・ゲノム編集とは何か：ゲノム編集/2 本鎖切断/修復 (堀内) ・免疫—生体防御機構：免疫/感染/アレルギー (中江) ・栽培：植物生理学/植物生態学/生産環境 (富永) <p>【陸の生物生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳生産と感染防御：乳房/炎症/抗菌ペプチド (磯部) ・土壌の役割：土壌/植物生産/養分循環 (長岡) ・ニワトリの本能行動と生産性：ニワトリ/間脳視床下部/攻撃行動 (河上) ・家畜化と品種改良：家畜/家畜化/ゲノム育種 (中村) <p>【水圏の生物生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲殻類の高付加価値化：性差/内分泌/生態応用 (豊田) ・高 CO₂ の海から見える未来の海の生態系：海洋酸性化/CO₂ シープ/海洋生態系 (和田) ・南極海水下の魚類生態：極限環境/適応進化/海水下生態系 (河合) <p>【食の科学と利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 次代謝物のケミカルバイオロジー：微生物/抗生物質/共生物質 (西村) ・食料の需給動向と流通：食料自給率/食の外部化/フードシステム (細野) ・マーガリンの歴史と代替食：食料問題/油脂/代替肉/ジューシーさ (小泉) ・食品衛生の向上が途上国の命を守る：食中毒菌/毒素/感染症 (中山) 			
7. 受 講 料	2,000 円			
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) テキストには「SDGs に向けた生物生産学入門」(三本木至宏監修、共立出版、2021 年発行)を使用します。大学生協で購入できます (2,970 円 (税込))。			
9. 学習記録	交付する		<input type="checkbox"/> 交付しない	
10. 科目等履修生	受け入れる		<input type="checkbox"/> 受け入れない	
	単 位 数	単 位		
	受入学年	高校 年生以上 (二次募集時 年生)		
	試験・評価 特記事項			
11. 開講条件※1 あり・ <input type="checkbox"/> ない	① 最少開講人数 (人) ② 不開講通知日 (前期開講科目は 3 月末まで/後期・集中開講科目は 6 月末まで)			
その他特記事項	受講者についての制限事項、オンライン (同時・録画) の使用ソフト、受講時の注意など 第 1 回目の授業でテキストと各回の授業内容を紹介します。それに従って予習をしてください。Teams を用いたオンライン (同時双方向型) 授業にて実施します。			
開設大学への交通手段	https://www.enica.jp/ 開設大学のホームページにジャンプして確認してください。			

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。